

森や木と親しむ6日間

2017弟子屈町木育週間



実際の作業道具を使って調査

7日には北海道認定木育マイスターの萩原寛暢さんをはじめ、森林のスペシャリストが集まり、小学生を対象とした木育プログラム「木に学ぼう」木で遊ぼう「子ども木育デー」を開催。16人が参加し、午前中は池の湯の国有林で実際の森林確認作業に使われる道具を使って目標物を見つけるゲームなどを行い、午後からは林業多目的センターに移動し、樹脂を使った石鹸作りや落ち葉を利用した万華鏡、マイ箸作りなどを体験しました。



創造力が養われる木のおもちゃでの遊び

町では木育への取り組みの一環として、10月2～7日に木育週間を開催しました。木育は北海道生まれの取り組みで、子どものころから木を身近に使っていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む活動。森林に囲まれ共生してきた本町にとって大切な取り組みです。期間中は町林業多目的センターに木のおもちゃや、森や木工など

世界水準を目指して

阿寒摩周国立公園名称変更記念式典



モシリによる記念公演(左) 各市町によるパネル展示(右)

『国立公園満喫プロジェクトと阿寒摩周国立公園』をテーマに、東京都市大学特別教授浦井史郎氏による基調講演では、欧米諸国と違い人々の暮らしと共にある日本の国立公園をどう世界水準に引き上げるかなどがスライド資料と共にわかりやすく紹介されました。続いて『これから阿寒摩周国立公園を考える』をテーマに、本町まちづくりアドバイザーの山田桂一郎氏をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われたほか、式典の最後にはアイヌ詩曲舞踊団モシリによる記念公演が行われました。



公園域の11市町が主催

8月8日に名称変更となった阿寒摩周国立公園。その記念式典が10月3日、徳永哲雄町長が会長を務める阿寒摩周国立公園広域観光協議会主催で、摩周観光文化センターで行われました。式典には町内外から約430人が来場。来賓で招かれた武部新環境大臣政務官はあいさつで同公園が環境省が推進する国立公園満喫プロジェクトの8つの地域のうちのひとつに選ばれたことに触れ「高い質を保てるよう、利用者の立場に立ち一層磨きをかけていく。世界水準のナショナルパークを目指し、地域の皆さんと連携して進めていきたい」とあいさつしました。

町の話



町の話



丁寧に収穫をする徳永町長(左)と川口摩周湖農協組合長(右)

ワイン用ブドウを収穫

「葡萄色の週末(エビイロウィークエンド)」を開催



地場産食材を使った料理とともに

研究会(会長・徳永町長)が主催したもので今年が2度目の開催。今年も参加店が昨年より3店舗増え、カフェエビイロC.O.V.O.、いなか家源平、屈斜路ユースゲストハウスわこつちカフェ、カフェレストランノール、food&bar DOMANI、すずめ食堂&バル、旬の肴とうまい酒もつきり家、御食事処ほっぺ亭、PUKAPUKA、Bakery & cafe miriya(美森家)の10店舗がそれぞれオリジナルの限定メニューを昨秋に収穫したブドウで醸造したワインと共に提供。多くの人でにぎわいました。12日には、ワイン醸造用のブドウの収穫が町民農園と町内協力農家で一斉に行われました。町では2009年からワイン用ブドウを栽培しており、現在は町内で約1400本の苗を栽培しています。今年360キを収穫。あいにくの天気となりましたが、徳永町長や川口摩周湖農協組合長に一般の参加者の約20人が一房ずつ丁寧に収穫しました。

町の話



町の話

交通安全に気を付けて

各地で旗の波運動



安全旗を手に安全運転をPR

同日、明建設(株)藤田利道代表取締役の皆さんが、道の駅第2駐車場そばの国道241号沿いで街頭啓発を実施。社会貢献活動として秋の全国交通安全運動期間に合わせて毎年行っています。約30人が参加し、ドライバーに安全運転を呼びかけました。



しおりと啓発品を手渡す児童

街頭に立ち交通安全を呼びかけ

北海道維持ネットワークと弟子屈道路事務所安全連絡協議会の協賛で9月20日、第2回街頭啓発旗の波運動が行われました。この日は15社から28人が参加。摩周観光文化センター前の国道243号線に立ち、安全旗を振ってドライバーに交通安全を呼びかけました。終了後、同協議会は道の駅へ移動し、台風で歩道や駐車場に散った落ち葉などの清掃を行いました。弟子屈町交通安全運動推進協議会(会長・徳永町長)主催の旗の波街頭啓発が、9月29日、摩周観光文化センター前の国道243号線で行われました。同運動期間に合わせて毎年行われているものに合わせ、毎年行われているもの。弟子屈町交通安全協会や女性ドライバークラブ、自治会、老人クラブなどに加え、奥春別小学校(小原正寿校長)からも児童が参加。約90人が安全旗を振って交通安全を呼びかけたほか、同校児童が啓発品や手作りのしおりをドライバーに手渡しました。